

チュニジア(1999年) サハラ砂漠の入り口・ドゥーズ

チュニジアの中央部にドゥーズという町がある。以前から砂漠を遊牧する民とオアシスに定住している民の会う場所として知られていたが、現在はサハラ砂漠の東部大砂丘の入り口として観光客で賑わいを見せている。

一世紀前までは遊牧民が夏場に休養するテント村だったと言われているこの町の佇まいに興味があったが、街中を見ていない。西へ10kmくらい移動したザフランでサハラ砂漠を眺めることを優先した。

ザフランには駱駝ステーションがあり、砂漠ツアーの基地になっている。ここに来ると数多くの駱駝と観光客が集まっている。100頭くらいはいるだろう。



(写真1) 駱駝タクシー乗り場。



(写真2) 私が乗った駱駝。



(写真3) サハラ砂漠に乗り出す観光客。

受付があるわけではない。観光客がそれぞれ選んで、交渉して時間と値段を決める。もちろん話が通じることはないので、こちらは現地ガイドを経由して頼むことになる。

駱駝が座っている状態で乗るので、跨るのは楽であるが、立ち上がる時に後ろ足、前足と交互に立ち上がるので、鞍につかまって体を前後にして、振り落とされない様になければならない。歩き出すと左右に揺れるが気持ち良い。砂漠の海で舟に乗っている気分だ。約一時間の砂漠旅行でほんのさわりでしかないが、ブッシュがあるのも初めだけで、やがて、砂原が何所までも続く。直射日光と輻射熱で暑いし、風が吹くと砂が舞う。けっしてロマンチックな雰囲気はない。もっともここで頼めば一泊の観光も出来て、砂漠の中での野営体験も出来るらしい。その際には星が輝く「月の砂漠」が味わえるのかもしれない。

単にサハラ砂漠の入り口に入っただけにすぎないが、それでも砂漠の大きさと厳しさを実感出来た。



(写真4) 駱駝の向こうに見えるホテル。